



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信(No.114)uniwish46号
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号 (2025年1月)
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 Facebook <http://www.facebook.com/unicef.saga>



「危機に瀕する
 世界の子どもたち
 の権利を守る」

<ユニセフ事務局長 キャサリン ラッセル 氏>

世界中で多くの子どもたちが、紛争や気候変動の影響・公衆衛生の危機・貧困の拡大など、さまざまな相互に関連する緊急事態のただ中に置かれています。**4億7300万人以上の子どもたちが壊滅的な紛争の中で暮らしており、世界の18歳未満人口の約半数にあたる10億人の子どもたちが気候変動の深刻な影響を受けている国々に暮らしています。**

◆紛争下の子ども4億7,300万人、今や6人に1人超、1990年代の倍に
 ユニセフ事務局長は「2024年はユニセフ史上最悪の年」と語る。

◆ユニセフ、1月19日のガザ停戦合意を歓迎 人道支援拡大の用意

<2025年1月15日ニューヨーク発>

2023年10月からガザ地区で戦闘を続けてきたイスラエルとハマスの間の6週間の停戦が今月19日に始まり、停戦直後から、ガザ地区への物資搬入が拡大しています。ユニセフは、多岐にわたる支援物資をトラックで輸送し、子どもたちと家族のもとへ迅速に届けています。1月19日：ユニセフの支援物資を積んだトラック32台がガザ地区南部に入り、水、衛生用品、防寒着、その他の必需品を届けました。ユニセフのトラックを含め、この日だけで630台以上の人道支援物資を積んだトラックがガザに入りました。



© UNICEF/UNI720579/Habeel

停戦発効後、ケレム・シャローム検問所からガザ地区へ入る、人道支援物資を積んだユニセフのトラック(パレスチナ、2025年1月19日)

◆シリア、政権崩壊後の復興に向けて、支援を必要とする子どもは750万人、子どもの未来を守る支援継続

<2025年1月14日ダマスカス発>

13年にも及ぶ壊滅的な紛争により、全土に推定32万4,000個の不発弾がばらまかれているなど、シリアのコミュニティが暮らす場所には戦争残存物が散乱しています。

この危険は、不発弾や地雷で汚染された地域に住む約500万人の子どもに影響を与えています。不発弾や地雷は、シリアの子どもの主要な死傷要因となっています。彼らが踏み出す一歩ずつが、想像を絶する悲劇のリスクを伴っているのです。



© UNICEF/UNI275343/Al Issa

アレッポ東部にて、爆撃で被害を受けた建物の間を、歩行器を使って歩く8歳のラマちゃん (シリア、2018年3月7日撮影)

◆熱波・洪水・暴風雨などの気象災害
 2024年には2.5億人近くが学校に通えず
 ユニセフ、気候変動対応における教育の役割を強調

85カ国で2億4,200万人の子どもが影響を受ける

<2025年1月24日ニューヨーク発>

1月24日の「教育の国際デー」に発表されたデータによると、昨年、学校閉鎖を引き起こした気象災害の最たるものは熱波で、4月だけでも1億1,800万人以上の子どもたちが影響を受けました。5月には南アジアの一部地域で気温が摂氏47度まで上昇し、子どもたちが熱中症の危険にさらされました。ユニセフは、増大する気候変動の影響から子どもたちを守るために気候変動に強い教室を支援しています。(例えばモザンビークでは、約230校で1,150以上の気候変動に強い教室の建設を支援しました。)



© UNICEF/UNI516373/Sami Malik

洪水で破壊されたままとなっている、泥でできた旧校舎の前に立つ10歳のアクサさん(右)。パロチスタン州にあるこの小学校では、ユニセフなどの支援で新しい校舎が建てられた(パキスタン、2024年2月7日撮影)

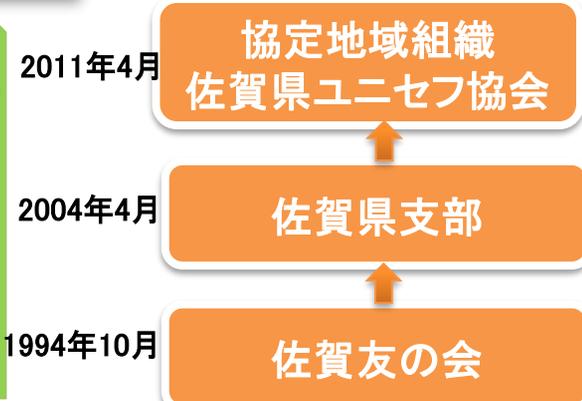
～すべての子どもに希望を～

佐賀県ユニセフ協会設立30周年記念式典



30年の間、ご支援くださった皆様に、感謝の思いを形にして伝えました！

30年の歩み



佐賀県ユニセフ協会は、昨年秋に30周年の節目を迎えました。本協会は、「わが子への愛を世界の子どもたちにも」という願いで、子育て中の女性たちを中心に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」として1994年10月スタートしました。それから「佐賀県支部」「日本ユニセフ協会協定地域組織佐賀県ユニセフ協会」と名称を変更しながら現在に至っています。

当協会では、これまでのご支援に感謝申し上げるとともに、世界の様々な課題に向き合いながら、次世代を生きる子どもたちが人生を切り開き成長することができるようにとの願いを込めて、記念式典 及び桑山紀彦さんによる公演 & コンサートを開催しました。

当日は、アバンセのホールに支援者の皆様やボランティアの学生さん達、地域組織の仲間の皆様方など総勢230名程の方々が応援に駆け付け、盛り上げ応援をしてくださいました。これからの活動への大きな励みとなりました。皆様ありがとうございました。

◆期日 2024年11月3日(日)
13:30～16:30
◆会場 アバンセ ホール
(佐賀市天神3丁目2-11)

◆式典内容

- ① オープニングアトラクション
 - * 葉隠れ太鼓ジュニア
 - * ティーンズミュージカルSAGA
- ② 30周年記念式典
 - * 主催者、来賓の挨拶
 - * 企業・団体・学校の表彰
- ③ 30年の歩み DVD映像
- ◆ 桑山紀彦氏 公演 & コンサートステージ
- ◆ 若者広場
 - ① Let's Do Unicef

① オープニングアトラクション



和太鼓 葉隠ジュニア
雷の新太郎さん



ティーンズミュージカル
ジカルSAGA
『架け橋』

② 30周年記念式典 (ご挨拶・表彰状贈呈)



中尾会長挨拶



日本ユニセフ協会
早水専務理事挨拶



ご来賓の挨拶 (山口知事、坂井市長、江里口市長)



佐賀リハビリテーション病院



国際弘堂学園



北稜高校生徒会



国際ソロブチミスト
佐賀西部



佐賀清和高校
インターアクト部



JA佐賀県女性組織
協議会



田口電機工業株式会社



ボーイスカウト佐賀県連盟



平尾建築事務所



矢ヶ部小学校



リコージャパン
株式会社佐賀支社



表彰者代表挨拶
コープさが生協
松本美和子 会長

③ 30年のあゆみ DVD映像 (時間の都合上、当日は最後に流しました)



設立30周年記念 公演 & コンサート

桑山紀彦氏 ～国境を越えて～



地球には沢山の人が生き、沢山の生き方がある。一人一人が人生の主人公として生きていこう。自分の心に争いの火種はないか。平和の礎は心の中にある。世界のことにも関心を持つ。



【コンサートのチラシ】

【桑山紀彦さんの公演&コンサートステージ】

NPO法人「地球のステージ」代表理事。心療内科医師「海老名こころのクリニック」院長。若い頃から現在まで60を超える国や地域を訪れ、物資の支援や医療支援などの国際協力活動をされている。

オープニングは、桑山さんが訪れた5大陸の美しい景色、紛争地の破壊された街、そこで見せる子どもたちの様々な表情が投影され「国境を越えて」の曲からスタートした。そこで出会った人々の苦しみや悲しみ、遅く生きる姿を背景に、自作の曲に思いを込めて3つの国(フィリピン、パレスチナガザ地区、ウクライナ)が紹介された。

フィリピンで出会った9歳の少女ロエナスとの出会いが、今の国際協力活動へのきっかけになった。貧しくて学校にも行けず「お金を頂戴」と路上で声をかける。悪臭のごみの山に暮らす家族、病院にも行けない苦しい生活。屈託のない明るい笑顔に励まされた。ありがとうを言いたい。その思いを「帰ろう」の曲に込めた。

パレスチナガザ地区には子ども達の「心のケア」で10年以上前から支援に赴いていた。そこで出会ったモハマッドが、2023年10月から戦闘が激しくなる状況をレポートで送り続ける。6メートルの塀に閉じ込められたガザの人々。命の大切さ、生きることの意味、人との繋がりが支えとなることを「落日の果て」の曲で紹介。

ウクライナの人々は美しい自然、肥沃な大地を誇りに思っている。その中で突然の侵攻という暴挙に毅然としている。隣国などで必死に生きる子ども達への心のケアや人々への医療支援をオデーサに事務所を置き続けている。傷ついている心が解放され、笑顔が戻るようにエンディングは、「地平線のひまわり」で締めくくられた。素晴らしい公演で反響が大きかった。



【30周年リーフレット】 【30周年記念誌】



【運営委員やボランティアさん達との集合写真】

ユニセフ 若者広場

『Let's Do Unicef !』

日本では2023年4月、こども家庭庁が発足し、「子ども基本法」も施行されました。ユニセフのすべての活動の基盤である「子どもの権利条約」、その考えを広めるチャンスだと考えています。佐賀県ユニセフ協会では、これを機に若者自身が意見を述べて自分が主人公となって動く活動に力を入れようと考えています。“未来を自分たちの力でつくる”

Ⅲ部の「ユニセフ若者広場」“let's Do Unicef”では、佐賀県ユニセフ協会の様々な活動に参加している中・高校生や留学生の皆さんによる体験発表をしてもらいました。これからの未来を切り拓く若者たちに頼もしさを感じました。



那須涼太さん
「子どもにやさしいまちづくりについて佐賀市長へ提言」



弘堂国際学園(ピアさん、サントシさん、リンさん)
「募金活動体験の発表」



佐賀市内の高校生の皆さん
「やってみよう切手整理ボランティアに参加して」



池田鼓世さん
ユニセフ30周年記念式典の司会の経験

【絵画展の様子】



★ 第8回 SDGs絵で伝えよう！ 『わたしたちの地球』を守る絵画展

* 日時: 9月24日(火)～9月29日(日) 9:00～17:00
* 【表彰式 10月9日(日) 10:30～11:50】
* 会場: 佐賀県庁 1階 県民ホール
* 主催: 佐賀県ユニセフ協会 * 共催: 佐賀新聞社

【47校からの応募数】

校種	応募数
小学校	276 点
中学校	97 点
合計	373 点

◆佐賀県ユニセフ協会主催の「絵で伝えよう！『私たちの地球』を守る」絵画展も今年で、8回目を迎えました。夏季休業中の作品制作として絵画募集を行いましたところ、SDGsについての関心や学びの状況も高まり、47の学校から373点の作品応募がありました。

近年、地球上では人が平和で幸せに生きていくことが困難な状況が多くみられるようになりました。様々な国や地域で起こっている紛争、難民の増加、温暖化による気候変動、干ばつや自然災害などによる飢餓・貧困など、ニュースでも多く報道されるようになりました。

2015年、「誰一人取り残さない」という願いの下、国連の150の国や地域の代表が集まって採択された『SDGs = 持続可能な開発目標』は、2030年に目標達成が危機的状況となっています。「佐賀の子どもたちは未来を見ている」のキャッチフレーズで始めた今回の絵画展でも“身近なところからSDGsの目標達成のために一人一人が初めの一步を歩みだそう”というメッセージが絵に表現されています。



【特別賞受賞者 及び 主催者との集合写真 2024. 9. 29】



【表彰式の様子】

3. 佐賀県ユニセフ協会会長賞
【思斉中学校3年 白石愛実さん】

1. 日本ユニセフ協会会長賞
【致遠館中学校1年 塚原葉音さん】



2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞
【古枝小学校 6年 釘尾優吏奈さん】



4. 佐賀新聞社賞
【西与賀小学校1年 古川結椰さん】



5. 佐賀新聞社賞
【七浦小学校3年 樋口朝妃さん】



6. 佐賀新聞社賞
【佐賀大学附属小学校5年生 吉原美和さん】





○ 8月8日 (木) 2024ピースアクションin長崎 (虹の広場)
 テーマ: 「戦争も核兵器もない平和な世界を
 ～被爆79年ナガサキの心を未来へ～」
 <長崎市民会館>



○ 8月20日 (火) 夏休み「やってみようボランティア」
 <佐賀市青少年センター>高校生等10人



○ 8月26日 (月) ユニセフ ボランティアカフェ
 参加者: 高校生 3人 <佐賀県ユニセフ協会事務所>
 ミニ研修: 「世界の子どもの現状とユニセフの活動について」

○ 9月15日 (日) 第15回日本ユニセフ協会協定九州地域組織交流会
 鹿児島県ユニセフ協会当番
 テーマ: 子どもの権利条約
 <天文館ビジョンホール6階>



○ 9月18日 (水) SDG s 絵画展応募作品373点 (47校) の審査
 審査員: 井上信宏先生、森和幸先生
 <佐賀市立図書館 多目的室>

○ 9月21日 (土) ユニセフ ボランティアカフェ
 参加者: 高校生など 4人
 ミニ研修: 30周年記念事業の
 記念バッジのデザインをしよう <佐賀県ユニセフ協会事務所>



○ 9月24日 (火) ～29日 (日) 第8回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展
 <佐賀県庁 県民ホール> 【詳細はP 4に掲載】
 *9月24日 (日) 表彰式&SDG s ミニ研修



○ 10月 2日 (水) 唐津市立佐志中学校 2年生 ユニセフ教室
 講話: 「世界の子どもの現状とユニセフ」
 ～やってみようボランティア～
 対象: 中学2年生と保護者 教諭 190人<佐志中学校体育館>

○ 10月 4日 (金) 佐賀子ども劇場「佐賀銀天夜市の売上金を寄贈
 実行委員の小学生と保護者 3人



○ 10月12日 (土) ユニセフ ボランティアカフェ
 参加者: 高校生など12人 <佐賀県ユニセフ協会事務所>
 ミニ研修: 30周年記念事業の記念バッジを作ろう



○ 10月18日 (金) 佐賀県立大和特別支援学校 高等部3年生 教諭 47人
 内容: ユニセフ教室「世界の子どもの現状とユニセフ」
 ～ウクライナの状況について～

○ 10月26日 (土) ユニセフ ボランティアカフェ
 参加者: 高校生など10人 <佐賀県ユニセフ協会事務所>
 ミニ研修: 30周年記念事業の記念バッジを作ろう



○ 11月 3日 (日) 佐賀県ユニセフ協会設立30周年記念式典 & コンサート
 記念公演: 国境を越えて
 講師: 桑山紀彦 氏 【詳細はP 2～3 に掲載】
 会場: アバンセホール



○ 11月15日 (金) 佐賀市立東与賀小学校 人権集会 全校生徒 人
 テーマ: ユニセフと世界の子どもの達
 ～募金のゆくえ～ <東与賀小体育館>

○ 11月24日 (日) 2024 さが国際フェスタ in 佐賀市 11:00～16:00
 ユニセフ・ブース出店で参加 (ユニセフ活動紹介)
 出店内容: ユニセフパネル展示<佐賀市: ドンドン・ドンドンの森>
 【紛争下の子どもの達、自然災害の中の子どもの達など】
 【こどもの権利条約広報・バルーンアートづくり
 SDG s 輪投げ・SDG s スマートボール等】



○ 12月11日（水） 田口電機工業株式会社から募金贈呈 ¥ 200,000 円

○ 12月21日（土） ユニセフ ボランティアカフェ & Let's Do Unicef
参加者：高校生など12人 <佐賀市青少年センター>
ミニ研修：『平和問題：ノーベル賞授賞式と高校生平和大使』
ちよこっとボランティア『使用済切手の整理ボランティア』



○ 12月 7日（土）～12月24日（金） 第46回 ユニセフ ハンド・イン・ハンド 募金活動
【詳細はP 6～7 掲載】

*2024年度は、佐賀県内の大型商業施設で募金活動を実施
<10店舗にて実施>



○ 12月24日（火） 日本語学校 弘堂国際学園募金贈呈
『弘堂祭』の売上金の一部を募金 ¥ 20,000 円



ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様、(株)田口電機工業様、内野産婦人科様、母子草様 佐賀市川副町民生児童委員互助会様 佐賀市文化会館様 さがんレストラン志乃空港店様、レストラン志乃県庁店様、佐賀ギター音楽院様、アルタ高木瀬店様、サンシャール、TSUTAYA鍋島店様、東洋館様 えんぴつ館様、佐賀子ども劇場様、川副太鼓様、北川歯科様、村岡屋駅南本店様、佐賀市文化会館様、菖蒲ご膳様、川崎自工様、村岡屋高伝寺店様、アルタ高木瀬店様、木原慶吾 & スピリッツ様、アルタ開成店様、EXCELアムール店様、恵比寿針灸整骨院様、イエローハットモンテ太陽本庄店様、イエローハットモンテ太陽医大通り店様、グランデはがくれ様、ホテルニューオータニ様、佐賀NOK様、麻生外語観光 & ブライダル専門学校様、浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様、ボーイスカウト佐賀第5団様、(株)北島様、ふくしま薬局通小路店様、矢山クリニック様、三瀬そば様、峰松整骨院様、あけぼの旅館様、ようどう館佐賀校様、ようどう館大和校様、進税理士事務所様、村岡屋卸本町店様、天山カントリークラブ北コース様、いっせい麺処様、佐賀県立北高等学校生徒会様、佐賀清和中学校様、日本語学校弘堂国際学園様、塩田小学校様、浜小学校様、鍋島小学校ハートフル委員会様、岩松小学校様、佐賀県立商業高等学校定時制生徒会様、西与賀小学校様

鳥栖市役所市民協働課さま、田代地区まちづくり推進協議会様、若葉地区まちづくり推進協議会様、基里地区まちづくり推進協議会様、妙福寺様、クリーニングショップホワイティ様、循誘公民館様、栗山委員様、田中電子工業(株)様、ゆめぶらっと小城様、佐賀市立図書館様、すぎの子文庫様、佐賀県高等学校家庭科クラブ様、佐賀市役所子ども家庭課様、佐賀学園様、JSA中核会様、コープさが新栄店様、佐賀県立大和特別支援学校様、門司歯科様、ガールスカウト兵庫県連盟第51団様、第一生命労働組合佐賀営業職支部様、サンテ溝上病院様

(順不同:2024年8月1日～2024年12月31日)

※ 個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



募金や使用済切手、使用済インクカートリッジなどのご支援、ありがとうございます。

第46回（2024年度）ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

in 佐賀県

Hand in Hand

ハンド・イン・ハンドとは、政治、宗教などに関係なく、「手と手をとって」世界の子どものしあわせと明るい未来を実現させるために、ユニセフの保健、水と衛生、栄養、教育、緊急援助等の事業への支援を通し、「子どもの権利条約」がすべての子どもに守られるよう、一人一人がボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。

<2024年のテーマ> 『子どもたちの健やかな成長を守ろう』

*子どもの権利条約には「差別の禁止」「子どもの最善の利益」「生命、生存及び発達に対する権利」「子どもの意見の尊重」の4つの原則のうち、今回は「生命、生存及び発達に対する権利」をテーマとします。

これは全ての子どもたちの命が守られ、持って生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されているという原則です。募金活動では、この趣旨を十分に理解し、呼びかけながら募金へのご協力をお願いしました。



2024年度 第46回ハンド・イン・ハンドの実績報告

●ハンド・イン・ハンドの募金総額 ¥2,202,024 円

★ハンド・イン・ハンドの募金内訳

- ◆募金箱設置の店舗様などからの募金・・・¥ 415,928円
- ◆小・中学校、高等学校、専門学校様からの募金・・・¥ 179,299円
- ◆企業・会社、団体、個人様等からの募金・・・¥ 1,277,851円
- ◆ハンド・イン・ハンド街頭募金活動・・・¥ 328,946円

★ハンド・イン・ハンドの協力者数

- ◆協力店舗・事業所数……………37 店舗及び事業所等 大型店舗ハンド協力9店舗
- ◆街頭募金協力学校やボランティアの協力者…11校+2ボーイスカウト⇒のべ158人
- ◆企業・会社、団体、個人様……………3会社+5団体+18個人



【12月21日(土)浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟】募金額¥103,199円



【12月7日(土)ゆめタウン佐賀店 1回目】
募金額 ¥54,477 円



【12月7日(土)ゆめタウン佐賀店 2回目】
募金額 ¥11,171 円



【12月7日(土)コープ新栄店】
募金額 ¥13,935 円



【12月8日(日)フレスポ鳥栖店】
募金額 ¥13,763 円



【12月8日(日)イオンモール佐賀大和店】
募金額 ¥27,835 円



【12月8日(日)モラージュ佐賀店】
募金額 ¥19,500 円



【12月15日(日)ゆめマート佐賀店】
募金額 ¥25,075 円



【12月15日(日)佐賀玉屋】
募金額 ¥32,908 円



【12月22日(日)ララベル鹿島店】
募金額 ¥27,080 円

● 2024年度 佐賀県ユニセフ協会を通して本部へ送金された 年間募金総額 ¥ 7,237,820 円 ご支援に心より感謝します。

- (内訳) **緊急支援へ** *ガザ地区 ¥1,181,538 円、*ウクライナ ¥870,173 円、
*東ティモール ¥457,900 円、
*自然災害 リビア洪水 ¥438,137 円、
通常募金へ ¥2,074,748 円 **支援ギフトへ** ¥13,300 円
ハンド・イン・ハンド募金へ ¥2,202,024 円、

支援の例



ワクチンスペシャルセット
49人分 1万円

佐賀県立高志館高等学校 J R C 部の皆さん —佐賀市—



(高志館高校 J R C 部の皆さん)

<佐賀県立高志館高等学校の紹介>

本校は、昭和9年に「佐賀農芸学校」として開校し、令和5年度には創立90周年を迎えた、歴史と伝統のある学校です。佐賀県の中西部に位置し、中部・東部地区唯一の農業高校として、「地域の持続可能な農業や産業を担う若人を育てる」を教育目標に、地域に根差し、地域から愛される学校づくりに力を入れています。また、本校には「園芸科学科」「環境緑地科」「食品流通科」の3つの学科が設置されています。各学科では、それぞれの専門的な分野について学ぶことで、地域の持続可能な農業や産業を支える核となる人材の育成に取り組んでいます。

★JRCとは、Junior Red Cross (青少年赤十字)の略称です。

JRC部(男子生徒6人)の活動紹介



福祉施設の畑でサツマイモを育てる活動

本校のJRC部の活動は、大きく分けて2つの柱があります。
1つ目は、青少年赤十字が主催するイベントへの参加です。今年度は、毎月開催される定例会でAEDの使い方を学ぶ研修を受けたり、体の不自由な方による講話を聞いたりしました。また、高志館高校が当番校となった際には、募金活動について調べ、募金で集められたお金がどのように使われているのかを他校の生徒たちの前で発表しました。
2つ目は、さまざまなボランティア活動への参加です。ユニセフや赤十字を中心とした募金活動への協力、地域行事のお手伝いをはじめ、農業高校の特色を生かした活動も行っています。たとえば、地域の福祉施設で畑にさつまいもを育てる活動や、食育の一環としてさまざまな野菜の苗植えを行うなど、地域に密着した取り組みを進めています。



収穫したサツマイモ

先輩方から続く、ユニセフとのつながり

★高志館高校JRC部の皆さんは、毎年、佐賀県ユニセフ協会のイベントや学校募金、年末の「ハンド・イン・ハンド街頭募金活動」にも近隣のイオン佐賀大和店で協力をしてくださっています。2022年ウクライナへの武力侵攻が始まった年には、学校上げて『緊急支援募金』にも取り組んでくださいました。

また、2024年は、当協会の設立30周年記念式典に担当の先生と6人の生徒さんがボランティアスタッフとして受け付けや子どもの権利条約のコーナーの説明などを担当してもらいました。長いご支援に感謝をしています。



イオン佐賀大和店のお客様から募金



【ウクライナ緊急支援募金贈呈】

【“当協会設立30周年式典及び公演会”でのボランティアとして活躍】

【ハンド・イン・ハンド募金活動】

<担当の八木尚子先生のコメント>

★ボランティア活動を通じて、他校の生徒やさまざまな年代の方々と関わることができ、生徒たちにとって非常に貴重な経験になっていると感じています。また、活動後の生徒からは、「自分が住んでいる地域のイベントにボランティアとして参加できて嬉しかった」「自分の活動で誰かが助かると思うと、大変な活動でも頑張ることができる」などの前向きな感想が寄せられており、嬉しく思っています。

(原稿提供：八木尚子先生 取材：江島きよ子)